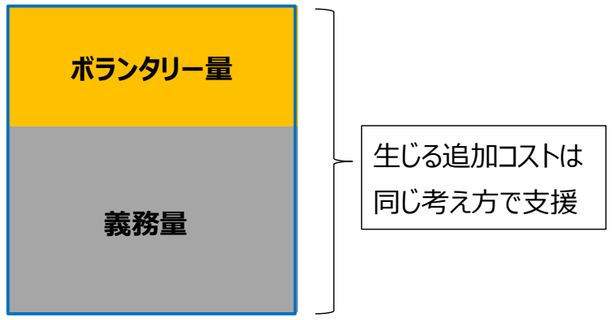
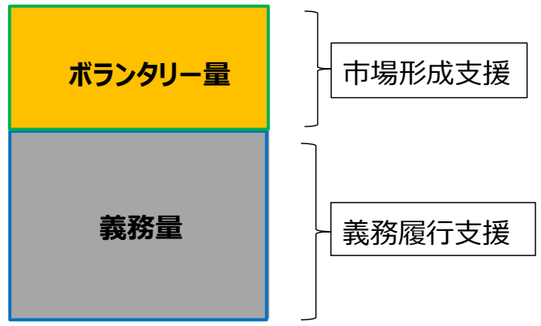
義務量：供給義務により必然的にエアラインが給油しなければならないSAFの量
ボランタリー量：供給義務により給油する量を超え、エアライン各社が自主的に導入するSAFの量

A：義務部分	**B：総量支援**	**C：区分支援**	**D：上限設定**
			
・供給義務量に応じて発生する追加コストに対して支援	・義務量とボランタリー量に対して、制度上区別せず一体的に支援	・義務量 導入コストに対して一定の利用者負担により支援 ・ボランタリー量 市場形成の度合を見ながら、支援規模等を検討	・利用者の理解を得られる範囲で一定の負担額を定める ・財源の範囲で、賄えるSAF量に対して支援
旅客一人当たりの徴収額（例） $= \frac{\text{義務分給油量の合計} \times \textbf{単価}^*}{\text{全国際線の総旅客数}}$	旅客一人当たりの徴収額（例） $= \frac{\text{義務・ボランタリー給油量の合計} \times \textbf{単価}^*}{\text{全国際線の総旅客数}}$	旅客一人当たりの徴収額（例） $= \frac{\text{ボランタリー分給油量} \times \textbf{単価}^* \times \textbf{一定割合}}{\text{全国際線の総旅客数}}$ $= \frac{\text{義務分給油量の合計} \times \textbf{単価}^*}{\text{全国際線の総旅客数}}$	旅客一人当たりの徴収額（例） ＝何らかの単価を設定(排出量×炭素価格など) 支援額例 ＝実際の給油量×**単価***×**一定割合(75%など)**